

---

# 朋友だより

---

21 世紀に入って 18 年目になります。改めて 21 世紀社会を展望してみました。

国際社会では、国の大小とは関係なく、それぞれの国の主権が尊重されるようになる一方、国内では憲法 13 条が保障しているように「すべての国民は個人として尊重される」社会が展望されます。

ご参考になれば幸甚です。

2018年2月

(有)コンサルタント朋友  
代表取締役 奥長弘三



## 21 世紀の展望



### 20 世紀の総決算

20 世紀をふりかえる場合、いろいろな見方がありますが、私は 20 世紀の最大の出来事は、国の大小で序列のない、世界の全ての国が対等・平等の資格で世界政治の主人公になる新しい時代になったこと、具体的には植民地支配からの脱却にあると考えます。

しかし、その道のりは、それほど簡単ではありませんでした。1945 年 10 月に国連が創設されますが、国連を創設した国々の中にイギリス、フランス、オランダ等の植民地大国が含まれていた為、「民族自決権」は明確化されませんでした。

民族自決権を最初に明確にしたのが、1955 年インドネシアのバンドンで日本を含む 29ヶ国が参加して開催された「アジア・アフリカ会議」-バンドン会議です。

そこで「植民地主義のあらゆる現れは速やかに終結されるべき悪である」と宣言されます。

アジアから始まった民族独立の波は、アフリカに渡ります。1957 年にガーナが独立、翌年にはギニアが続きます。そして 1960 年には、たった 1 年のうちに大小 17 の国が独立します。

そして 1960 年 12 月に国連総会で「植民地独立付与に関する宣言」が採択されます。ここにはじめて、植民地を許さない国際秩序が確立されます。

そして今世紀に入った 2001 年に画期的な「ダーバン宣言」が出されます。南アフリカのダーバンで国連を中心に「人種主義、人権差別、外国人排斥及び関連する不寛容に反対する世界会議」が開催され、「ダーバン宣言」が採択されました。

「植民地主義によって、苦痛がもたらされ、植民地主義が起きたところは、どこであれ、いつであれ非難され、その再発は防止されなければならないことを確認する」

植民地支配は、過去に遡って非難されなければならないというのが、21 世紀の国際政治の到達点となっています。

この点では、日本の現状は重大な問題を抱えています。

一つは 1910 年の「韓国併合」を未だに不当・不法なものだと認めていません。

いまひとつは戦後のアメリカとの関係です。アメリカの軍事基地が日本各地に置かれており、日本の現状はとてども独立国とは言えません。米軍基地が集中的に存在する沖縄の現状が切実にこのことを訴えています。

### 「明治 150 年」に関連して

今年が明治元年(1868 年)から 150 年に当たります。政府主導で「明治 150 年」関連施策が推進されています。

戦前の日本が「富国強兵」の名のもとにアジア諸国に対する侵略と戦争の道に突き進んだことは紛れもない事実です。

政府主導の「明治 150 年」関連施策が「明治 150 年」の前半が侵略戦争と植民地支配という負の歴史を持っている事実に向けないのは正しい姿勢とは言えません。

この流れの中で見た場合、山田朗著『日本の戦争・歴史認識と戦争責任』(新日本出版社 2017 年 12 月)は注目すべき本と考えます。同書は、一般に「成功事例」と見られがちな日露戦争と「失敗事例」とされる日中戦争を中心に、その連続性・関連を究明しています。

その上で日本は自主独立の立場から程遠い存在にあると厳しく指摘されています。

歴史的に日本の近代化は「自主独立」どころか、超大国追従の歴史であった。明治時代は日英同盟を結び、次に自分でやろうとして上手く出来なくて、結局ドイツ・イタリアと三国同盟を締結して失敗する。

戦後は日米同盟であるが、虎の威を借りる様に、超大国を後ろ盾にしながら自国の

存在感を強めていく——という点で戦前も戦後も一貫していると言える。(同書 P.203)

改めて 21 世紀社会を展望したとき、国家の独立性が問われます。

## グローバル化社会をどう考えるか

21 世紀を展望する上で、欠かせない視点は、グローバル化社会をどのように考えるかです。

グローバル化は 20 世紀の後半、特に 1970 年代以降急速にひろまり、全世界を飲み込みました。そして、2008 年のリーマンショックでグローバル化の弊害と限界がはっきりした形で現れました。

グローバル化は未開発国の住民を不幸にするだけでなく、先進諸国の一般国民から職と財産を奪い、不幸に陥れるものであることが明らかになりました。

改めて国内回帰、国内で仕事をつくることの大切さが問われています。

ジャック・サピール著『EU 崩壊—秩序ある脱世界化への道—』(坂口明義訳、藤原書店 2017 年 8 月)は、この間の事情を詳しく追求しています。

同書は商品のグローバル化と金融グローバル化によって形成されてきた世界化の弊害が明らかになった現在、そこから抜け出せと主張します。

著者によれば、EU とは 1980 年以降顕著になった世界化の欧州版であり、国民無視の多国籍企業本位の政治経済体制であるから、各国の国民本位の政治経済体制を基本に置いた協調組織に変革すべきだとします。

そして資本移動規制での脱世界化を提唱しています。

この文脈で考えると、イギリスの脱 EU の意味がよくわかります。

そして昨今のポルトガルの動向も注目に値します。政権が変わり、国内での雇用を重視する政策のおかげで、海外に出稼ぎにっていた人達が、国内で仕事が見つかるようになり、町に賑わいが戻っています。

## 「21 世紀型中小企業づくり」の追求

筆者が所属する中小企業家同友会では「21 世紀型中小企業づくり」を提唱しています。(中同協第 25 回定時総会 1993 年)

1. 自社の存在意義を改めて問い直すとともに、社会的使命に燃えて事業活動を行い、国民と地域社会からの信頼や期待に高い水準で応えられる企業
2. 社員の創意や自主性が十分に発揮出来る社風と理念が確立され、労使が共に育ちあい、高まりあいの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業

第 1 項では、グローバルだ、やれ世界だという風潮の中にあって、「国民と地域社会」にきちんと目を向け、顧客の信頼や期待に「高い水準」で応えられる企業をつくろうと呼びかけています。

第 2 項では、社員一人ひとりの「創意や自主性」が十分発揮できること、そして活力に満ちた「豊かな人間集団」としての企業という表現に注目しています。企業における社員との関係は単に仕事だけの関係でなく、一人ひとりとの人間としての付き合い、深い信頼関係を築き上げることを呼びかけています。このような関係を「豊かな人間集団」と表現しています。

それぞれの国が独立国としてお互いに尊敬され、自国の文化・伝統をみがき合いながら、他国と交流する——そのような 21 世紀社会にふさわしい中小企業像を追求していると言えるでしょう。



## 東京電源 株式会社

(東京都足立区：代表取締役 夏目 昌彦 氏)

創業 51 年になる電源機器の老舗企業。昭和 47 年（1972 年）9 月に現社長の父君が交流定電圧電源装置の設計・製造・販売する会社として設立されたのがはじまりです。

その後順調に業容を拡大し、社員数 10 名です。

平成 23 年 12 月に足立区から足立ブランド（FC ADACHI）の認定を受けています。平成 28 年 8 月に現社長、夏目昌彦氏が社長に就任されました。

写真は同社の主力商品、CATV 用無停電電源供給器 NPS・303 です。受信点・送信点・増幅器など屋外 CATV 伝送機器用の電源供給器であり、商用時、停電時を問わず、定格電力の安定供給を行い、4 時間のバックアップが可能です。

電源機器事業としては同器の他、メンテナンス電源供給器、耐雷トランスなど多種の商品を扱っています。

また環境衛生機器事業としては、水素水サーバー、電解水衛生環境システム、除菌電解水給水器@手洗いなどの商品群が並びます。



新社長の方針として、社員を大切にすることを第一に掲げています。その為に社員とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの社員が自覚的、自律的に仕事に取り組む様に努めておられます。

## 経営理念

- 一、我社は、社員とその家族の物心両面での幸福を実現する
- 一、我社は、信頼される電源機器の製造販売を通じて社会に貢献する
- 一、我社は、環境衛生機器の販売を通じて、安心・安全な社会の実現に貢献する
- 一、我社は、顧客を始め、仕入先、外注先の満足度向上に努める

お問い合わせ : 東京電源株式会社  
〒121-0836 東京都足立区入谷 8-1-17  
TEL. 03-3897-7747 FAX. 03-3855-3530  
<http://www.tokyodengen.co.jp/index.html>

～\*～\*～ あとがき ～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

朋友だより 150 号をお届けいたします。

フィギュアスケートで 66 年ぶり 2 連覇という快挙は羽生結弦選手に冬季五輪通算 1000 個目の金メダルという修飾語まで添えられました。怪我のあと、短期間での復帰でしたが、氷上の姿を視たときその演技は何かを超越した夢のような 4.5 分間でした。試合後、自らの右足への愛ある労りに勝利への執念を感じました。また、スピードスケートの小平奈緒選手は自身が冬季五輪新記録を出した直後の満場の大声援を抑えるべく次滑走者である長年のライバルで有り、お互いをリスペクトしあっているという開催国の李相花（イ・サンファ）選手達のために観客に向け人差し指を口に当て制する気遣いのしぐさも話題になっています。彼等を含め今回の選手達の試合後の洗練された大人のコメント、周りの支えや応援への感謝の言葉の数々に TV に釘づけられながら俄か親戚のような幸せ感を覚えました。  
(野上)



## 朋友

有限会社 コンサルタント朋友  
〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-36-11  
千駄木センチュリー21 602 号  
TEL. 03-5815-3021 FAX. 03-5815-3022  
e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp  
URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>